

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：平成 30 年 4 月 13 日 報告者：原 祐樹

行事種別	研究会	行事番号	180000346	
開催日	平成 30 年 4 月 7 日 (土)			
時間	開始	15 時 30 分	終了	18 時 00 分
場所	アーバンネット名古屋ビル 20F リップルスクエア (所在地 名古屋市)			
テーマ	もう一度学びなおそう！CRE/CPE の現状と課題			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	名古屋第二赤十字病院	原 祐樹 技師		
	刈谷豊田総合病院	藏前 仁 技師		
講師	講演 1：CRE/CPE の言葉の定義と 4 学会連携提案について 小牧市民病院 西尾 美津留 技師			
	講演 2：CRE/CPE 検査法の現状と問題点 -何ができて何ができていない？- 愛知医科大学病院 坂梨 大輔 技師			
	講演 3：幻の微生物学会副学会長講演 JA 愛知厚生連江南厚生病院 舟橋 恵二 技師			
内容	講演 1 では、2017 年 10 月に日本臨床微生物学会など 4 学会が合同で発表した、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) およびカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌 (CPE) に関する提案を初歩から解説して頂いた。 講演 2 では、CRE/CPE の検出法・鑑別法について、膨大な実験データを元にその有用性と問題点を解説して頂いた。 CRE/CPE の検出法・鑑別法は明確なプロトコルが示されておらず、多くの施設が対応に苦慮していると思われる。今回の講演 1・2 は、改めて CRE/CPE について考え、自施設での方向性を決定する判断材料を、県下の技師へ提示できたと思われた。 講演 3 では、2 月に岐阜市で開催された日本臨床微生物学会学術総会の副学会長より、その長い経験で培った、『善良な微生物検査室』の資質についてご講演頂いた。 全ての講演において、参加者から多数の質問があり、活発な討議が行われた。			
参加者	総数：112 名 (会員 112 名)			
共催、後援など				

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：平成 30年 7月 10日 報告者：位田 陽史

行事種別	研究会	行事番号	180003776	
開催日	平成 30年 7月 7日 (土)			
時間	開始	15時 30分	終了	18時 00分
場所	アーバンネット名古屋ビル 20F リップルスクエア (所在地 名古屋市)			
テーマ	知っておきたい！薬剤感受性試験の基礎			
生涯教育履修点数	専門教科 20点			
司会	名古屋第二赤十字病院	原 祐樹 技師		
講師	講義 1：CLSI ドキュメントを知ろう 愛知医科大学病院 宮崎 成美 技師 講義 2：ディスク拡散法の基礎 JA 愛知厚生連安城更生病院 近藤 好 技師 講義 3：微量液体希釈法の基礎 公立陶生病院 位田 陽史 技師 講義 4：微生物検査室の管理 刈谷豊田総合病院 藏前 仁 技師			
内容	講義 1 では、微生物検査の標準法ともいべき CLSI ドキュメントについて、基本的な構成、ブレイクポイントの解釈、記載事項について解説して頂いた。 講義 2 では、ディスク拡散法の基礎として、Mcfarland 濁度から培地への塗布、ディスクの置き方などの基本的な手技、確認事項を解説して頂いた。 講義 3 では、微量液体希釈法の基礎として、微量液体希釈法の原理と解釈、E-test の読み方について、また、簡単なピットフォールについて解説して頂いた。 講義 4 では、微生物検査の管理として、ISO15189 取得施設から、微生物検査の内部精度管理や、人材教育、育成の管理、細菌検査室の管理などを、事例を元に解説して頂いた。4 講演ともに、参加者から多数の質問があり、活発な討議が行われた。			
参加者	総数：81 名(会員 81 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名)			
共催、後援など				

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：平成 30 年 9 月 3 日 報告者：山本 優

行事種別	研究会	行事番号	180013384	
開催日	平成 30 年 9 月 1 日 (土)			
時間	開始	15 時 30 分	終了	18 時 00 分
場所	アーバンネット名古屋ビル 20F リップルスクエア (所在地 名古屋市)			
テーマ	知っておきたい！薬剤耐性菌の基礎 ～グラム陽性球菌を中心に～			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	名古屋第二赤十字病院	原 祐樹 技師		
講師	<p>講義 1 : <i>Staphylococcus</i> spp. の薬剤耐性 豊橋市民病院 山本 優 技師</p> <p>講義 2 : <i>Enterococcus</i> spp. の薬剤耐性 名古屋大学医学部附属病院 長田 ゆかり 技師</p> <p>講義 3 : <i>Streptococcus pneumoniae</i> および <i>Haemophilus influenzae</i> の薬剤耐性 JA 愛知厚生連足助病院 古井 清 技師</p> <p>講義 4 : 薬剤耐性菌の最近の話題 愛知医科大学病院 坂梨 大輔 技師</p>			
内容	<p>講義 1 では、日常的に遭遇する薬剤耐性ブドウ球菌について、その耐性機序、検出するための確認試験法、結果の報告について解説して頂いた。</p> <p>講義 2 では、腸球菌属について、同定する際のポイントと薬剤感受性の特徴・注意点、また VRE の検出方法や感染症法における届出等について解説して頂いた。</p> <p>講義 3 では、PRSP の検出数の動向や判定基準における注意点、またインフルエンザ菌について、ABPC 耐性率の推移やβ-ラクタマーゼによる分類について解説して頂いた。</p> <p>講義 4 では、講義 1～3 で解説した耐性菌について、迅速に鑑別することが、感染対策や抗菌薬適正使用において重要であることを、最近の知見を交えながら解説して頂いた。</p> <p>4 講演ともに、参加者から多数の質問があり、活発な討議が行われた。</p>			
参加者	総数：87 名(会員 87 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名)			
共催、後援など				

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：平成 31 年 2 月 20 日 報告者：原 祐樹

行事種別	研究会	行事番号	180029909	
開催日	平成 31 年 2 月 16 日 (土)			
時間	開始	15 時 30 分	終了	18 時 00 分
場所	名古屋大学医学部 基礎研究棟 (所在地 名古屋市)			
テーマ	微生物検査における精度管理を考える			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司会	刈谷豊田総合病院 藏前 仁技師			
講師	<p>講演 1 : 平成 30 年度愛臨技精度管理報告 JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠</p> <p>講演 2 : 検体検査の精度保証に関する法律改正 岡崎市保健所 中根 邦彦</p> <p>講演 3 : 米国の精度管理について～米国研修から見たもの～ 名古屋第二赤十字病院 原 祐樹</p> <p>講演 4 : 法改正を受けた班員施設の現状 JA 愛知厚生連安城更生病院 近藤 好 碧南市民病院 太田 晃成 名鉄病院 池戸 政博</p>			
内容	<p>講演 1 では、今年度の愛臨技微生物部門の精度管理事業の設問に関して、結果および出題意図について解説を行った。また、評価方法の部分については、評価基準を明らかにして、評価に関して疑義が生じないよう丁寧に解説を実施した。</p> <p>講演 2 では、昨年 12 月に施行された法改正について行政の立場から講演を行った。法改正によって現場にどういった準備が求められるかについて分かりやすく解説をしていただいた。また、講演 3 では米国の精度管理と題して、米国で行われている精度管理と日本の現状を比較しながら講演を行った。講演では、米国の方がはるかに進んでいることが報告され、日本がまだまだ発展途上であることが感じられた。講演 4 では、法改正に対して班員施設がどのような対応をとっているかについて報告が行われた。各施設ともまだ手探りで進めており、特に内部精度管理に関しては今後の大きな課題となりそうであった。</p>			
参加者	総数：77 名 (会員 76 名、県外会員 0 名、非会員 1 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名)			
共催、後援など				

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：2019年4月12日 報告者：原 祐樹

行事種別	研究会	行事番号	190000156	
開催日	2019年4月6日(土)			
時間	開始	15時30分	終了	18時00分
場所	アーバンネット名古屋ビル20F リップルスクエア(所在地 名古屋市)			
テーマ	基礎から学び直すグラム染色 -臨床貢献につなげるために-			
生涯教育履修点数	専門教科 20点			
司会	JA愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠 技師			
講師	<p>講演1：グラム染色の基本 -原理と材料別処理について-</p> <p style="padding-left: 40px;">JA愛知厚生連海南病院 伊藤 楓 技師</p> <p>講演2：グラム染色の実際 -鏡検のポイントとピットフォール-</p> <p style="padding-left: 40px;">JA愛知厚生連豊田厚生病院 永田 悠起 技師</p> <p>講演3：グラム染色の精度管理 -ISO15189取得施設からの報告-</p> <p style="padding-left: 40px;">愛知医科大学病院 宮崎 成美 技師</p> <p>講演4：グラム染色ケースカンファレンス -臨床貢献するためにはどうするか?-</p> <p style="padding-left: 40px;">小牧市民病院 西尾 美津留 技師</p>			
内容	<p>講演1では、グラム染色の原理や材料別の検体処理法について、基礎的な内容について講演を行った。</p> <p>講演2では、グラム染色を正しく鏡検するためのポイントとピットフォールについて、多くの写真を交えながら詳しく解説して頂いた。</p> <p>講演3では、ISO15189を取得している施設から、グラム染色の精度管理について自施設の実施方法をご紹介頂いた。この講演では、参加者より特に多くの質問があり、昨年12月に施行された法改正をうけ、各施設まだまだ手探り状態で精度管理を行っている現状が浮き彫りとなった。</p> <p>講演4では、10症例のグラム染色結果について、ケースカンファレンス方式で講演を行った。臨床貢献するために我々はどうすべきなのか、症例を通して多くの知識が共有できた。</p> <p>全ての講演において、活発な討議が行われた。</p>			
参加者	総数：116名(会員110名、県外会員1名、非会員0名、賛助会員1名、学生0名、その他0名、申請中4名)			
共催、後援など	なし			